

プラズマ・核融合サイエンスチャートを通じた学際交流
-趣旨説明-

**Interdisciplinary communication trough the Plasma Fusion Science Chart
- Symposium Objective -**

森 芳孝
MORI Yoshitaka
光産業創成大
GPI

[背景]

プラズマ・核融合分野の分野共有説明資料として、プラズマ・核融合サイエンスチャートをまとめることが、2020年度核融合科学研究所共同研究「2030年代以降を見据えたプラズマ・核融合科学の学術課題検討会(通称 Fusion2030研究会)」にて提案された[1]。Fusion2030研究会では、ボトムアップで、将来計画・研究展望・ビジョンについて、自由に意見を交わす方針を掲げている。2021年度からは、プラズマ・核融合学会に専門委員会「プラズマ核融合サイエンスチャートの作成」が設立され、サイエンスチャート作成の作業が進められている。図1に、Fusion2030研究会の履歴を示す。2020年度は、3つのステップ：情報把握、将来テーマ議論、ドキュメントまとめを設けて、学術テーマの議論をおこなった。2021年度は、2020年度活動のまとめと核融合科学研究所で開始されたユニット構築の議論を見守った。2022年度は、専門委員会と連携しサイエンスチャートの取りまとめを本格化し、8月の全体会合(六カ所中継)にて、研究会の関係者と情報共有をおこなった。本シンポジウムでは、サイエンスチャートの内容を関連分野の研究者と共有し、分野間の接点と将来の連携等について議論する。

3年目 2022年度の活動にむけて

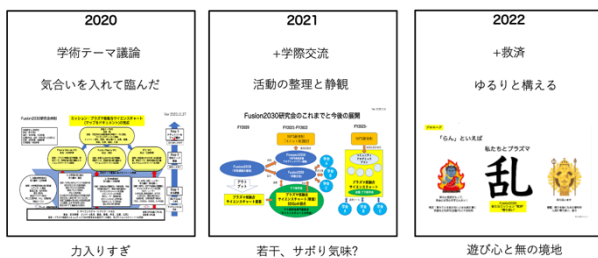


図1：Fusion2030研究会の履歴

[シンポジウムの内容]

サイエンスチャートは、関連分野の専門家を対象として作成が進められている。本分野のアイデンティティ、歴史と広がり、課題と謎への挑戦が掲載される。シンポジウムでは、サイエンスチャートの概要について、分野のアイデンティティ等を中心に紹介した後に、Fusion2030研究会の核融合プラズマワーキングでまとめられた核融合プラズマのサイエンスとその広がり[2]に触れ、将来に向けた課題と謎を紹介する。その後、パネルディスカッション形式(司会：笠田竜太先生[東北大金研])で、関連分野の研究者と議論を深める。関連分野として、プラズマ応用(金子俊郎先生[東北大])、統計数理(菊地和平先生[統数研])、天文(鈴木建先生[東大])、科学史(雨宮高久先生[日大])の専門家に登壇いただく。パネルディスカッションでは、登壇者の専門分野を紹介いただいた上で、サイエンスチャートを交えながら、分野間の接点、及び将来の連携等について議論する(図2)。

プラズマ・核融合サイエンスチャートを通じた学際交流
-総合討論-

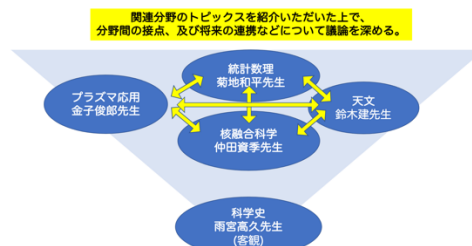


図2：総合討論の全体像

参考文献

[1] Fusion2030研究会URL:

<https://www-col.nifs.ac.jp/info/Fusion2030/>

[2] 学術課題集-核融合プラズマのサイエンスとその広がり-

https://www.nifs.ac.jp/research/Fusion2030/FPWG/pdf/FPWG_Landscape.pdf